

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

みなみかぜ



南風

第 1 2 号

令和 5 年 1 月 6 日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

輝きにあやかる

校長 吉原 誠 士

新年です。難しい話は抜きに、まずは明るく卯年を迎えることにしましょう。学校だけでなく私たちが住む社会全体が難しい感染症と格闘を始めて3年が経ちます。今も警戒を緩めることができない状態が続いてはいます。しかし本校は自信をもってこれを乗り切ることができそうです。

この3月に卒業する現3年生は中学校生活開始の2か月間を自宅で過ごさなければなりませんでしたが、しかしその後の困難を実に上手くやり過ごしてきたのでした。保護者参観の機会を制限したことについては意見も出ましたが、体育祭や合唱コンクールを欠かすことなく実施しました。与野七福神巡り、川越校外学習と学年を追って経験を積み上げての修学旅行も成功裡に終えることができました。また、館岩自然の教室に参加できた数少ない学校の一つにもなっていました。コロナ禍の真只中にありながら、二つの宿泊行事で参加者全員が途中帰宅せずに済むのは極めて珍しいことなのでした。

こうした「輝くような成果」を、単に「ついていた」という一言で片付ける訳にはいきません。本来の「つき」に日常的な「心掛け」が加わり、さらには関係各位の「お陰（支援）」があつてのことなのです。例を挙げると、館岩の時は生徒たち自らが直前の連休での外出自粛を呼びかけていました。京都の宿舎は2年前に決めてありましたが、当分の間感染症が続くことを見越して提案した旅行業者と選定にあたった学年主任の好プレーでした。お家での過ごし方にも苦労があつたこととお察しします。

これから迎える進路決定にあたって、3年生が様々な経験を「よきもの」として自分のものにできることを期待しています。さらに、続く2つの学年が「輝きにあやかっ」、幸運な流れを引き継ぎながら「それぞれの持ち味と各人の個性」を発揮するのも楽しみです。そう考えると一人ひとりの努力、そして私たち＝教職員、保護者、地域の方々＝の「支え」をまだまだ欠かすことができないこともはっきりしてきます。大人たちも「それぞれの持ち味と各人の個性」の発揮が大事です。皆で協力して、

最高に明るい中学校

を
目指しましょう。

《 3 学期始業、そして年頭にあたって 》

あけましておめでとうございます。

新年度4月に向かつての始動です。3学期は有終の美が飾れるよう、本校教職員一同、全力を尽くします。来年度、本校はさいたま市教育委員会から委嘱された研究発表の年にあたっています。新たな学習スタイルも含めた意欲的な指導を行ってまいります。保護者の皆様と地域の方々には、今年もよりいっそうのご理解とご協力をお願いいたします。